



[HOME](#)

■ お知らせ

8/22「これからの認知症ケアを考える」シンポジウム開催をアップしました

■ 1万人市民委員会2010とは

[介護の社会化を進める
一万人市民委員会2010
について](#)

[代表挨拶 堀田 力](#)

[代表挨拶 鳥海房枝](#)

[組織と役員](#)

[運営と財政](#)

[事務局](#)

[一万人市民委員会
\(1996～2000\)について](#)

■ オピニオン

[一万人市民委員会2010
のめざす方向](#)

[介護保険の10年とこれ
からの課題\(池田省三\)](#)

[要介護認定システム廃
止論の誤りについて](#)

[これからの認知症ケアを
考える](#)

■ 反論

[菊地雅洋氏の主張への
反論](#)

[菊地氏謝罪の報告と謝
罪文](#)

■ ディベート

[「認知症の人と家族の
会」高見代表への申し入
れ書と回答](#)

[田中尚輝氏への抗議](#)

■ 資料室

[関連リンク](#)

[東近江市発「持続可能な](#)

介護の社会化を進める1万人市民委員会 2010
シンポジウム「これからの認知症ケアを考える」【報告】

2011年8月22日(月)、シンポジウムには約100人の市民が参加し、認知症になっても入院せずに、地域で暮らせるケアについての有意義な議論が行われました。



【1】「認知症になっても入院しないで地域生活を続けるために」
社会福祉法人ロザリオの聖母会海上療養所副院長の上野秀樹氏

認知症の人の精神科病院への入院は平成20年で5万2000人、9年前の1.4倍に増加しています。かつて入院医療に携わっておられた上野氏の経験も交え、認知症の人の精神科入院は、人権侵害されたときの権利回復手段が十分ではなく、認知症の人には利用が難しいこと、しかも入院が長期化しやすい問題点があり、できるかぎり避けるべきであると述べました。認知症の人には適切なケアが何より重要ですが、精神科医療が必要なケースもあります。

上野氏の療養所では、精神科外来の受診が困難な認知症の人のために、必要に応じて精神科訪問診療を実践、入院をしなくても、精神症状や行動障害のコントロールが可能となっています。

※この講演は、「認知症サポーター養成講座」を兼ねたものとなり、参加者にはオレンジリングが配布されました。

レジュメ掲載の「認知症の方を地域で支えるための精神科医療」は[こちら](#)

【2】「これからの認知症ケアを考える」
地域ケア政策ネットワーク研究主幹 龍谷大学教授 池田省三氏

認知症高齢者が予想以上に増加しているなか、在宅生活が十分に可能な生活自立度Ⅱ以下でも、施設へ入所する人が増えています。原因疾患の鑑別診断も正しく行われているとはいえ、治る病気が見逃されているだけでなく、認知症による生活障害への支援が薄いため、多くの負担が家族に委ねられ、社会的入院・入所は解消しないどころか、最近では、精神病床への入院も増えています。

認知症は治らなくても、在宅で穏やかな生活を送ることは可能です。そのためには、生活障害への支援を軸にしたケアの拡充、経験と勘に頼ったケアや施設収容型ケアから脱却し、認知症について医療・介護・地域が共通認

仕組み」

[「認知症の方を地域で支えるための精神科医療」](#)
(上野秀樹)

[「特別養護老人ホームにおける個室・ユニットケアに関する意見書意見書」](#)

■ イベント

[再開シンポ\(2010年7月18日\)](#)

シンポジウム「これからの認知症ケアを考える」
(2011年8月22日)

■ 入会

[入会のご案内](#)

■ ご意見・おたより

[ご意見はこちら](#)

識をもち、介護を体系化していくことが重要です。

当日使用したスライド(これからの認知症ケアを考える)は[こちら](#)

【3】 政党代表による討論「これからの認知症ケア」

●シンポジスト

民主党 柚木道義衆議院議員

自由民主党 あべ俊子衆議院議員

公明党 坂口力衆議院議員

社会民主党 福島みずほ参議院議員

●コーディネーター

堀田力 介護の社会化を進める一万人市民委員会2010代表

●コメンテーター

上野秀樹

池田省三

柚木氏は、地域での支援体制強化のために、既存の地域包括支援センターの役割をさらに拡充した「地域生活支援センター」の創設を提案しました。

あべ氏は、「認知症の早急発見のために総合診療医の養成が必要とし、家族介護を前提としたいまの制度を独居モデルに転換していくべき」としました。

坂口氏は、独居や高齢者世帯の増加している現状に合った取り組み、介護人材の育成や処遇改善を求め、財源確保のために、介護保険料の徴収年齢の引き下げについても言及しました。

福島氏は、「認知症の人が地域で安心して暮らせるように、認知症への理解を広め、小規模多機能型居宅介護などサポート体制の充実を」と訴えました。

コメンテーターの池田氏は、「在宅で認知症の人を支えるために重要なケアマネジメントの担い手として訪問看護師に期待。訪問看護制度の再構築が必要」と訴え、上野氏は「認知症の人の精神科入院を減らすために、訪問診療を拡充するなど、精神科医のインセンティブとなる制度の創出を」と提言しました。